

図書館界の先覚者

中田邦造先生の著作年表

梶 井 重 雄

凡 例

一、本年表は、中田邦造先生の明治三〇年六月一日より昭和三十一年一月一日永眠されるまでの閲歴、並びに著書・論文・雑筆・日記・座談会等の標題を、年ごとにまとめて表示したものである。

二、年ごとの年齢を記し、閲歴は本書の性質上、主として著作等の業績に関係あるものを掲げた。

三、年ごとにゴチック体洋数字で月次を示した。

四、著者名は、本名の外に、「自邦居士」「空人生」のペンネームを用いたものもあり、雑誌編集者として無記名の場合もあるが、著者執筆の明らかなもののみ記した。

五、近年、社会教育、図書館側からの中田邦造研究熱が高まり、資料に関する問い合わせも多く、今後の研究者のために、細大洩らさず記録するよう心がけた。不備な資料のお気付きの方はご教示願いたい。

著 作 年 表

(1925)	明治30年—大正13年 (1897—1924)
<p>7</p> <p>大正一四年(一九二五) 二九歳</p> <p>四月、予備役召集を解除せられ、予備役陸軍輜重兵少尉に任ぜらる。同月、石川県主事を命ぜらる。(石川県)</p> <p>社会生活の自覚的活動としての社会事業(「石川県之社会改良」第二号、石川県庁内石川県社会事業協会発行)</p> <p>社会救済の第一義諦(同号、「自邦居士」として発表。)</p> <p>成人教育の基礎(小西博士檜崎博士講義概要)(同号)</p> <p>饑餓に瀕しつつある世界の平和(同号、「空人生」として発表。)</p>	<p>明治三〇年—大正一三年(一八九七—一九二四) 一歳—二八歳</p> <p>明治三〇年六月一日、滋賀県甲賀郡柏木村に出生。父己之助・母はるの長男。明治四一年六月、滋賀県甲賀郡水口尋常小学校卒業。明治四五年三月、同郡水口高等小学校卒業。大正六年三月、滋賀県立膳所中学校卒業。</p> <p>大正九年六月、第八高等学校卒業。大正一二年三月、京都帝国大学文学部哲学科卒業。同年四月、同大学大学院に入学し純正哲学を研究(兵役のため中途退学) 同年同月、「哲学概説」につき高等学校高等教員の免許状下附。同年一二月、一年志願兵として輜重兵第一六大隊に入営。大正一三年一二月、予備役に編入せられ陸軍補充令により召集。</p> <p>大正九年七月二日より一〇日に至る巡礼日記『南天棒を訪ふ』あり、大正一一年、哲学科特殊講義の論文『直観』、大正一二年二月、哲学科卒業論文『意志論』あり、第二中隊志願兵としての『軍隊日誌』(第一冊)(大正一二年一二月より大正一三年八月まで)と別冊『軍隊日誌』(一)(大正一二年一二月より同年三月まで)と、『軍隊日誌』(二)(大正一二年一月一日より同月一九日まで)とあり。</p>

大 正 15 年 (1926)	大 正 14 年
<p>大正一五年（一九二六）三〇歳</p> <p>四月、社会事業主事に任ぜらる。（内閣）</p> <p>1—12 日誌（一月一日—二月二四日、別冊の日誌（一月一日—四月二一日）あり。</p> <p>1—9 読書の内面的意義を省みて図書館関係者の任務を想ふ（一）—（六）（石川県立図書館月報）二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八・三〇）（以下月報と略す）</p> <p>1—12 日誌（一月一日—二月二四日、別冊の日誌（一月一日—四月二一日）あり。</p> <p>3 社会事業家の要性。（「社会改良」第四号「石川県之社会改良」の改題、巻次を継承）</p> <p>社会教育概論未成稿（一）（同号）</p> <p>編輯だより（同号）</p> <p>7 社会問題と社会事業（同、第五号）</p> <p>拳村禁酒の河合谷村（同号）</p> <p>不良児の更生機関：県立育成院の紹介（一）（同号）</p>	<p>11</p> <p>緑化運動（同号。）</p> <p>娯楽を要せざる生活（同号）</p> <p>農民美術の紹介（同号）</p> <p>悲惨なる幸福なる追求者（同号）</p> <p>無為の二相（同号）</p> <p>編輯だより（同号）</p> <p>空想よりも自由なる行為—社会改良の理想—「巻頭の言」（「石川県之社会改良」第三号）</p> <p>貧にして尊き人間生活—山室軍平—（同号）</p> <p>娯楽と芸術的観賞力（同号）</p> <p>能登の海岸に輝く三種の講習会の紹介（同号）</p> <p>警戒すべき興味ある統計（同号）</p> <p>編輯だより（同号）</p>

昭和 3 年 (1928)	昭和 2 年 (1927)	
<p>昭和三年（一九二八）三二歳</p> <p>五月、西洋文化移入に関する図書展覧会を開催</p> <p>御大典に際会して県下図書館事業の更生を期待す（「月報」四六）</p> <p>町村立図書館の創設並にその充実を望む（「月報」四七）</p> <p>年度の変り目に立って―昭和二年度の回顧と昭和三年度の想望（「月報」四九）</p> <p>県下住宅の現状と改善運動の出版（「社会改良」第七号）</p> <p>編輯だより（同号）</p> <p>社会事業協会の任務と本県社会事業の更生について（「社会改良」第八号）</p>	<p>昭和二年（一九二七）三一歳</p> <p>二月、石川県立図書館長事務取扱を命ぜらる。一二月、児童研究会を設立、会長となる。</p> <p>私の態度（「月報」三六）</p> <p>廉価版全集物の流行期にあたり県下通俗図書館関係者に告ぐ（「月報」三七）</p> <p>現代社会の根本問題「巻頭言」（「社会改良」第六号）</p> <p>酔漢を嘲ふ啞児（同号）</p> <p>本県図書館事業の現勢（同号）</p> <p>不良児の更生機関―県立育成院の紹介（二）（同号）</p> <p>編輯だより（同号）</p> <p>学童の科外読書の価値についての一考察（「月報」三八）</p> <p>県下私有図書の調査について（「月報」四〇）</p> <p>郡部に於ける県立図書館の利用に就て―県下公私立図書館長諸氏に―（「月報」四二）</p> <p>読書週間の真意（「月報」四四）</p>	<p>編輯だより（同号）</p>

昭和四年 (1929)				昭和五年 (一九三〇) 三四歳							
12	10	昭和三年度の新事業(四)図書館衛生問題 (「月報」五五) 県下図書館事業関係者連合の提案 (「月報」五七)	昭和四年 (一九二九) 三三歳	11	10	8	6	5	4	2	1
			二月石川県図書館協会を設立、会長となる。五月、加能越図書調査会を組織し、幹事となる。同月、組合文庫を設立。六月、本邦地理に関する古書展覧会を行う。七月、性能検査講習会。十一月、俳諧古書展覧会を行う。								
			金沢市立図書館の創設にあたり県立図書館の任務を顧みて市当局に望む (「月報」五八)								
			石川県図書館協会の成立―普く関係者の加入を望む (「月報」五九)								
			昭和四年度事業計画 (「月報」六一)								
			図書館協会の事業 (「石川県図書館協会報」一) (以下協会報と略す)								
			加能越図書調査 (「月報」六二)								
			性能検査のその後 (「協会報」三)								
			加能越図書調査のその後 (「月報」六五)								
			読書週間は尚強調さるべし (「月報」六七)								
			教化運動と図書館 (「月報」六八)								
			昭和五年 (一九三〇) 三四歳								
			十一月、万葉展覧会、一〇月「組合文庫」の外に「読書学級」「読書組合」を計画								
			日誌 (昭和五・六・七・八・一〇・一一・一二・一四・一七・一八・一九・二〇・二一・二三・二七年)								
			市立図書館の落成と購入図書の選定 (「月報」七〇)								
			町村における緊縮予算と図書館費 (「月報」七一)								
			図書館事業の一大躍進期に臨んで (「月報」七二)								
			現下我国図書館事業の動向―全国図書館長会議に現はれたる― (「月報」七三)								

(1931)			昭和 5 年 (1930)												
3	2	1	昭和六年(一九三一)三五歳	12	11	10	9	8		7	6	5			
				<p>昭和五年度の出発にあたって(「協会報」一二二) 所謂附帯事業と事業の本質について(「月報」七四) 図書館と学校との連絡の途―文部大臣の諮問への答申に就いて―(「月報」七五) 農村民教養の現状と読書指導(一)―石川郡米丸村民読物調査の結果に鑑みて―(「月報」七六) 文化の分化性と現代人の要求「巻頭の言」(「社会改良」第一〇号) 再び保健食に就いて―大杉谷村の食糧改善計画を見て(同号) 編輯だより(同号) 農村民教養の現状と読書指導(二)(「月報」七七) 同上(三)(「月報」七八) お詫びと御相談を―会員諸氏に―(「協会報」一七) 農村民教養の現状と読書指導(四)(「月報」七九) 万葉展覧会の後に(「協会報」一九) 地方における図書展覧会について―万葉展を終りて―(「月報」八〇) 読書学級の意義とわが協会の任務(「協会報」二〇) 読書学級の組織立とその実施(「月報」八一)</p>											
				<p>昭和六年(一九三一)三五歳 八月、公立図書館長に任ぜらる(内閣)、石川県立図書館長に補せらる(文部省)。一〇月、第二五回全国図書館大会を金沢市で開催、郷土文化展覧会を行う。</p>											
				<p>読書組合についての想定(「月報」八二) 郷土の研究とその知識の普及について―あまねく県下の郷土研究家諸賢に―(「協会報」二二) 読書学級の編成に臨んで(「月報」八三) 郷土関係図書の出版計画について(「協会報」二二) 万葉展覧会(「図書館雑誌」第二五年第二号) 萌芽したる読書学級を眺めて(「月報」八四)</p>											

(1932)				昭和6年											
4	3	2	1												
昭和七年(一九三二) 三六歳															
一一月古版展覧会を行う。															
県主催図書館協議会の声を聞く(「月報」九四)															
巡回書庫の更新(「月報」九五)															
読書学級の現況(「協会報」三三)															
町村図書館存立の要件―職員を如何にすべきか―(「月報」九六)															
組合文庫について―昭和六年度の実況とその将来―(「協会報」三四)															
町村図書館の図書購入上の一策(「月報」九七)															
産業と観光の博覧会と県図書館協会の奉仕―来沢の町村教職員諸賢に―(「協会報」三五)															
				12	11	10	8	7	6	5	4				
				石川郡北部読書学級の成立(「協会報」二三)											
				日本図書館協会主催全国図書館大会―今秋金沢市にて開催せらる―(「月報」八五)											
				町村図書館の経費節減とその対策―図書購入の斡旋より購買組合へ―(「月報」八六)											
				羽咋郡志賀郷読書学級について(「協会報」二五)											
				読書学級と青年団幹部講習(「月報」八七)											
				河北郡中部読書学級の誕生(「協会報」二六)											
				鳳至郡南部読書学級生―読書学級普及のその後の情勢―(「協会報」二七)											
				全国図書館大会準備事務のその後(「月報」八九)											
				江沼郡東北部読書学級の組織(「協会報」二八)											
				図書館週間にあたりて図書館事業の新興機運を語る(「月報」九二)											
				全国図書館大会を終りて(「月報」九二)											
				景周先生の全集刊行を予告して―大方の御協力を希ふ(「協会報」三〇)											
				組合文庫と専用書庫を活用せよ―現下の不況時に臨みて町村図書館予算を如何にすべきかの問に答へて―(「月報」九三)											
				富田景周先生著作の所在を探ぬ(「協会報」三一)											
				季節的託児所保母養成講習会記(「社会改良」第一号)											

(1933)						昭和 7 年						
6	5	4	3	2	1	11	10	9	8	7	6	5
<p>昭和八年（一九三三）三七歳</p> <p>昭和八年九月より改正図書館令（勅令第一七五号）により石川県立図書館は中央図書館に指定。十一月神祇に 関する展覧会、三州維新勤王家資料展覧会を行う。</p> <p>公共図書館の今日明日―昭和癸酉年頭に想ふ―（「月報」一〇六）</p> <p>窮乏農村と図書館員―図書に機会を与えよ―（「協会報」四三）</p> <p>地方公共図書館の古書展と書誌学（「月報」一〇七）</p> <p>読書学級生は何を如何に読んでゐるか（「協会報」四四）</p> <p>良書とその推薦（「月報」一〇八）</p> <p>真実教育に心するものの態度（「月報」一〇九）</p> <p>公共図書館の使命（「石川県社会課」）</p> <p>一人一話の心―「我が子」にとって「桃太郎」は何か―（「月報」定期増刊、童話1）</p> <p>酬いられざる図書館功労者の選奨について―図書館令改正の期に規定を設けよ―（「協会報」四七）</p> <p>文相の諮問への答申とその価値―第二七回全国図書館大会をかへりみて―（「月報」一一一）</p>						<p>公共図書館の社会性の具体化（「月報」九八）</p> <p>読書学級臨時総集会概況（「協会報」三六）</p> <p>図書館相互の連絡協力と単位能力、第二六回全国図書館大会並に第一回中央図書館長協議会決議（「月報」九九）</p> <p>第一期組合文庫の成績批判（「協会報」三七）</p> <p>昭和六年度巡回書庫部活動の省察―書庫派遣と組合文庫―（「月報」一〇〇）</p> <p>景周先生著作出版の予告について（「協会報」三八）</p> <p>所謂非常時における教育対策と図書館（「月報」一〇一）</p> <p>図書館の対象の考へ方（「月報」一〇二）</p> <p>時勢は図書館に於て何をを得るか―第一〇回図書館週間にあたりて―（「月報」一〇三）</p> <p>図書館の宣伝と館員の自省（「協会報」四一）</p> <p>古版展覧会を終りて（「月報」一〇四）</p>						

図書館界の先覚者中田邦造先生の著作年表

(1934)					昭和8年						
5	4	3	2	1	12	11	10	9	8	7	
<p>昭和九年（一九三四）三八歳</p> <p>一〇月、蓮如上人と一向一揆並富樫氏に関する展覧会を行う。</p> <p>図書館更生の第一要件―理由にならぬ口実を捨てよ―（「月報」一一八）</p> <p>石川県図書館協会の更新計画（「協会報」五五）</p> <p>図書館員の拠って立つところ（「図書館雑誌」第二八年第一号）</p> <p>公共図書館の事務・経営・管理―経営の方針を確立すべき二条件―（「月報」一一九）</p> <p>図書館記念日を迎へんとして（「月報」一二〇）</p> <p>協会々則の更改（「協会報」五七）</p> <p>中央図書館報としての本誌の出版―県下の図書館員は挙つて来り談ぜよ―（「月報」一二二）</p> <p>図書館は図書館として発達せしめよ（「図書館雑誌」第二八年第四号）</p> <p>町村図書館の社会教育的働(1)（「月報」一二二）</p> <p>読書会・研究会・座談会（町村図書館の社会教育的働(2)（「月報」一二二）</p> <p>選奨せられた板津村立図書館の概況（「協会報」五九）</p>					<p>改正された図書館令（「月報」一二二）</p> <p>昭和八年度組合文庫の発送に臨んで（「協会報」四九）</p> <p>改正図書館令の施行規則を読む（「月報」一二三）</p> <p>図書館令の改正と公私立図書館―図書館網構成への第一歩―（「協会報」五〇）</p> <p>図書館令の改正に伴ふ関係法規と図書館事業の実質的發展（「月報」一二四）</p> <p>貸出文庫の鉄道運賃五割引―十月十五日より実施―（「月報」一二五）</p> <p>図書館週間と展覧会（「協会報」五二）</p> <p>あての脱れた運賃五割引（「月報」一二六）</p> <p>神祇展の目録の改訂を終りて（「協会報」五三）</p> <p>新本古本の区別から価値認識の問題へ（「月報」一二七）</p> <p>本協会の出版事業（「協会報」五四）</p>						

昭和 9 年			
6	中央図書館長会議並に全国図書館大会の概況〔月報〕一二三	昭和 10 年 (一九三五) 三九歳	1
7	中央図書館長挨拶 (鹿島郡第一教育部会の図書館振興協議会における中田中央図書館長の挨拶)〔月報〕一二三	一月、軍戦記展覧会を行う。	2
8	読書教育についての新計画―青少年文庫の創設にあたりて―〔月報〕一二四 (付青少年文庫規定)		
9	文部省主催・図書館講習会〔協会報〕六一		
10	読書学級の友へ (読書に生きる人々) 第一号		
11	文部省主催図書館学講習会の講習内容の組織立てに就いて〔月報〕一二五		
12	図書館振興協議会の状況〔月報〕一二五		
	青少年文庫の申込について〔協会報〕六一		
	図書館社会教育の意義目的並に其範圍に属すべき事業の種類〔図書館雑誌〕第二八年第八号〔図書館社会教育調査委員会主査委員中田邦造〕		
	北信五県図書館協議会概況―連合会の組織成る―〔月報〕一二六		
	〔蓮如上人と一向一揆附富樫氏〕の展覧会―「富樫氏と一向一揆」の刊行を記念して〔協会報〕六三		
	図書館週間とその行事〔協会報〕六四		
	青少年文庫開設のところ附所用図書群〔月報〕一二八 (付青少年文庫用図書)		
	蓮如上人と一向一揆並富樫氏に関する資料展回顧〔協会報〕六五		
	読書学級三年間の内面的決算〔月報〕一二九		

昭和10年 (1935)									
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
<p>集団的読書指導上における補助員制度と相互教育法 (町村図書館の社会教育的働(4) (『月報』一三三)</p> <p>町村図書館の後援団体とその方法 (『協会報』六九) (付〇〇図書館後援会々則 (参考案)</p> <p>大日本文藝院の設立—それへの欲びと希望と— (『石川県中央図書館月報』一三三) (以下月報と略す)</p> <p>五〇〇円の値—文部大臣よりの交付金の効果— (『月報』一三三)</p> <p>第六年度組合文庫の編成に臨んで (『協会報』七〇)</p> <p>個人別閲覧票の利用を勧む—読書指導の三要件に鑑みて— (『協会報』七〇)</p> <p>聖典講義の数々—一杓の米より卑しく百万石の米より貴し— (『読書に生きる人々』第四号)</p> <p>青少年文庫昭和一〇年度新計画 (『月報』一三四)</p> <p>「本を助ける会」生る—書物に対する態度を反省しつつ— (『協会報』七一) (附規程)</p> <p>中央図書館長協議会における文部大臣への答申の内容 (『月報』一三五)</p> <p>簡易図書修理の講習会—需めに応じて講師を派遣す— (『協会報』七二)</p> <p>読書相談簿の教育的利用 (町村図書館の社会教育的働(5) (『月報』一三六)</p> <p>読書・体験・労働—読書に生きる人々の強さ (『読書に生きる人々』第五号)</p> <p>一箇半箇の直接指導 (町村図書館の社会教育的働(6)</p> <p>所謂転向者に語る(一) (『月刊更生』第三二号、石川更新会発行)</p> <p>県立図書館の機能を再検討せよ—予算編成の前提として— (『月報』一三八)</p> <p>軍戦記図書・絵巻の展覧会—「前田氏戦記集」の刊行を記念して— (『協会報』七四)</p> <p>軍戦記展覧会計画の具体化—徳富蘇峰先生、新村・重山博士の清援— (『月報』一三九)</p> <p>第一三回図書館週間に臨んで—町村図書館は何を為すべきか— (『協会報』七五)</p> <p>所謂転向者に語る(二) (『月刊更生』第三四号)</p> <p>朝鮮における全国図書館大会概況—宇垣総督の図書館観・文相への答申等— (『月報』一四〇)</p> <p>軍戦記展覧会を終りて (『協会報』七六)</p> <p>朝鮮旅行・その案内記 (『読書に生きる人々』第六号)</p> <p>第二回北信五県図書館連合会総会概況 (『月報』一四一)</p> <p>新しく崩え出でるものの姿—歳末の随感— (『協会報』七七)</p>									

昭和	和	12	年	(1937)
12				<p>図書館の推薦とその精神（児童学年別推薦図書館群——一人ノ子供ニ一年間ニ是非読マセタイ図書——中にて就筆）</p> <p>第二回全国中央図書館長会議概況（「月報」一五三）</p> <p>若き読書奉仕部員等の活動——鳥屋村立図書館の新しい試み——（「協会報」八八）</p> <p>夭死・結婚難（「読書に生きる人々」第九号）</p>
昭和	二	年	（一九三七）	四一歳
1				<p>県下標準図書館出現の新機運に臨みて——町村町書館經常費予算について——（「月報」一五四）</p> <p>戸川秋骨氏の「書籍無選択」「読書放任」論を讀みて（上）——林中村立図書館上田司書に答ふ——（「協会報」八九）</p> <p>全村禁酒の河合谷村で村落更生の図書館計画（「月報」一五五）</p> <p>戸川秋骨氏の「書籍無選択」「読書放任」論を讀みて（中）——林中村立図書館上田司書に答ふ——（「協会報」九〇）</p> <p>町村誌編纂講習会の開催——柳田国男氏支援の下に同時に開く全国町村誌展覧会——（「月報」一五六）</p> <p>戸川秋骨氏の「書籍無選択」「読書放任」論を讀みて（下）——林中村立図書館上田司書に答ふ——（「協会報」九二）</p> <p>「第十七図書館」（尋常科用 小学） （国語読本 卷九）を讀みて——県下の小学校職員各位に望む——（「月報」一五七）</p> <p>町村編纂講習会並に全国町村誌展覧会要綱——県下全町村に今年内に町村誌稿を作れ（「協会報」九二）</p> <p>結核菌に対し図書館は武装せよ——消毒器を備へて県民の健康への積極的働き——（「月報」一五八）</p> <p>図書の委託購入と組合文庫の編成（「協会報」九三）</p> <p>特輯号とそれへの期待（「読書に生きる人々」第一〇号家庭生活と読書号）</p> <p>町村誌編纂講習会の概況と今後編纂実現の見込み（「月報」一五九）</p> <p>満洲国における全国図書館大会概況（「月報」一六〇）</p> <p>図書館を課題とする児童の作文募集——文集として編纂刊行——（「協会報」九五）</p> <p>石川県の図書館計画（1）（「月報」一六一）</p> <p>図書館人の満支視察雑録（1）（「協会報」九六）</p> <p>戦時態勢の社会にあつて図書館は何をせんとするか（「月報」一六二）</p> <p>石川県の図書館計画（2）——図書館の眼に映じたる石川県の実情（イ）——（「月報」一六二）</p> <p>第四回北信五県図書館大会の概況（「協会報」九七）</p>

昭和 13 年 (1938)											
9	8	7	6	5	4	3	2	1	昭和十三年(一九三八) 四二歳		
<p>石川県下図書館長会議の招集を前にして(「月報」一六六)</p> <p>市町村図書館経費予算に関する県の通牒を見て(「協会報」一〇二)</p> <p>書・ノ対象学ニツイテ(「書研究」XI-I、一九三八—二)</p> <p>県下図書館長会議の概況(「月報」一六七)</p> <p>石川県の図書館計画(4)―図書館の眼に映じたる石川県の実情(「月報」一六八)</p> <p>図書館人の満支視察雑録(3)(「協会報」一〇三)</p> <p>石川県の図書館計画(5)―図書館の眼に映じたる石川県の実情(「月報」一六九)</p> <p>改訂版石川県史第一巻発刊にあたりて(「協会報」一〇四)</p> <p>戦時態勢裡における全国図書館大会並に中央図書館長会議の報告(「月報」一七〇)</p> <p>図書館消毒実施に関する座談会の後に―結核予防法施行細則第七条等の適用を控へて―(「月報」一七一)</p> <p>郷土図書第八期刊行の辞(「協会報」一〇六)</p> <p>県下全小学校に「図書館」課教授参考書の頒布(「月報」一七二)(昭和十三年六月発行の<small>小学国語</small>読本巻九巻十七「図書館」課教授参考書は中田邦造その原案を作成とある。)</p> <p>町村図書館の難路に曙光を認む―江沼郡図書館視察を終りて―(「月報」一七三)</p> <p>日本人による曲阜儒教図書館創設の期待、図書館人の満支視察雑録(4)(「協会報」一〇八)</p> <p>石川県の図書館計画(6)―図書館の眼に映じたる石川県の実情(「月報」一七四)</p>									<p>戦時における平常心と持久力の体験(「読書に生きる人々」第一号)</p> <p>国民精神総動員に際し図書館員としての所信を述ぶ(「月報」一六三)</p> <p>支那事変第一年度の図書館週間を迎へて(「協会報」九八)</p> <p>国民精神総動員に参加して図書館の実施すべき事項(「月報」一六四)</p> <p>石川県の図書館計画(3)―図書館の眼に映じたる石川県の実情(「月報」一六五)</p> <p>図書館人の満支視察雑録(2)(「協会報」一〇〇)</p>		
<p>二月、憲法発布五十周年記念展覧会を行う。四月、自治制発布五十周年記念展覧会を行う。</p>									12	11	10

(1939)										
7	6	5	4	3	2	1	昭和十四年(一九三九) 四三歳	12	11	10
<p>現実社会の再認識と図書館対象界の構成(2)―石川県の図書館計画(8)―〔月報〕一七八〕 図書館による銃後社会強化の途―経費予算に関する両部長の通牒を見て―〔協会報〕一一三〕 県下図書館長会議の招集を前にして〔協会報〕一一三〕 石川県図書推薦委員会生る〔月報〕一七九〕(付石川県図書推薦委員会要綱) 遂に図書館経営の任に堪へぬ人々〔協会報〕一一四〕 協会の改組問題と六大都市中央図書館の必要性について〔中央図書館協会誌〕創刊号〕 県下図書館長会議の招集〔月報〕一八〇〕 時局に乗る工場青年の頹廃気分と町村図書館による之が対策〔協会報〕一一五〕 読書道と読書術〔北国新聞〕昭和十四年三月一六日〕 県民生活への図書館対策1―石川県の図書館計画(9)―〔月報〕一八一〕 大陸経営哲学を聴く―衛藤奉天図書館長を迎へての満洲事情講演会において―〔協会報〕一一六〕 第六回中央図書館長協議会並に第三三回全国図書館大会に臨みて―戦時図書館運動の方向―〔月報〕一八二〕 大陸第一線皇軍将校の文化運動〔協会報〕一一七〕 県民生活への図書館対策2―石川県の図書館計画(10)―〔月報〕一八三〕 青少年学徒ニ賜ハリタル勅語とその実践の大道としての読書修養〔協会報〕一一八〕 県民生活への図書館対策3―石川県の図書館計画(11)―〔月報〕一八四〕</p>							<p>図書購入斡旋事業の反省―町村図書館の現状に顧みて―〔協会報〕一〇九〕 県庁と中央図書館とが協同で主催する国民精神総動員図書館振興講習協議会〔月報〕一七五〕 国民精神作興図書館週間実施の方針とその行事〔協会報〕一一〇〕 国民精神総動員図書館振興講習協議会を顧みて〔月報〕一七六〕 「長期建設戦に関する研究会」の概況―国民精神作興図書館週間の一企画〔協会報〕一一一〕 現実社会の再認識と図書館対象界の構成(1)―石川県の図書館計画(7)―〔月報〕一七七〕 能美郡町村図書館視察〔協会報〕一一二〕</p>			

(1940)	昭和 14 年
<p>昭和十五年（一九四〇） 四四歳</p> <p>三月、石川県立図書館長を辞す。四月、東京帝国大学附属図書館司書官となる。五月、「図書館雑誌」（日本図書館協会発行）の編輯兼発行者となる。</p> <p>1 図書館計画の実現に邁進―皇紀二七〇〇年を目指して―（「月報」一九〇）</p> <p>2 石川県図書館協会の改組にあたり県下図書館員各位に告ぐ（「協会報」一二二五）</p> <p>「我町（村）の図書館計画」の樹立を求む（「月報」一九一）</p> <p>3 本会の刊行事業の現状（「協会報」一二二六）</p> <p>甲種図書館の推薦とその活用（「月報」一九二）（付石川県図書館推薦甲種図書館群委員会選定、目録昭和一五年度）</p> <p>甲種図書館群の普及とその購入斡旋（「協会報」一二二七）</p>	<p>8 県民生活への図書館対策 4―石川県の図書館計画(12)―（「月報」一八五）</p> <p>9 図書館蔵書更新の問題―破損・不要図書廃棄とその処分斡旋―（「協会報」一二二〇）</p> <p>調査員会案甲種図書館群の成立の機会に―石川県図書館推薦委員会の経過と今後―（「月報」一八六）（付調査員会案甲種図書館群）</p> <p>第六回北信五県図書館大会予告（「協会報」一二二）</p> <p>公共図書館の蔵書構成について（「中央図書館長協会誌」第二号）（付石川県図書館推薦委員会選定甲種図書館群―調査委員会案）</p> <p>10 第六回北信五県図書館大会概況（「月報」一八七）</p> <p>全国一斉の「読書普及運動」十一月八日―一二日を期して読書の会を開かう（「協会報」一二二）</p> <p>11 県民生活への図書館対策 5―石川県の図書館計画(13)―（「月報」一八八）</p> <p>石川県中等学校図書室連盟の結成（「協会報」一二三）</p> <p>皇紀二六〇〇年の記念事業を準備せよ（「月報」一八九）</p> <p>謹んで一八、〇〇〇冊を弔ふ（「月報」一八九）</p> <p>模範図書館の設定について（「協会報」一二四）</p> <p>12 読書指導について―読書指導をなさんとする人々のために―（「社会教育」一〇巻一二号）</p>

図書館界の先覚者中田邦造先生の著作年表

昭和十五年											
4	石川県立図書館長を辞して（「月報」一九三）										
5	編輯後記（「図書館雑誌」第三四年第五号）										
6	図書館雑誌編輯の根本方針（巻頭言）（「図書館雑誌」同年第六号）										
7	編輯後記（同号）										
7	定款改正の問題（同年、第七号）										
8	編輯後記（同号）										
8	「我が町（村）の図書館計画」を見て（「月報」一九六）										
9	国家の図書館計画を要望す（巻頭言）（「図書館雑誌」同年第八号）										
9	図書館法改正の枢要点（同号）										
9	編輯後記（同号）										
9	連絡団体の設定―本協会連絡団体規程生る―（同年第九号）										
9	見返しの白紙を活かせ（屑籠）（同号）										
10	編輯後記（同号）										
10	編輯後記（同年第一〇号）										
11	編輯後記（同年、第一一号）										
12	編輯後記（同年、第一二号）										
12	第二〇〇号記念特輯号 月報一五箇年の思出（「月報」二〇〇）										
昭和十六年（一九四一）四五歳											
1	協会更生の好機遂に来る（巻頭言）（「図書館雑誌」第三五年第一号）										
1	町村図書館指導の根本精神（同号）										
1	町村図書館の経営方法（同号）										
1	編輯後記（同号）										
2	教育審議会と我等の進言書（巻頭言）（同年、第二号）										
2	編輯後記（同号）										

昭和 16 年 (1941)									
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
第九回図書館記念日を迎へんとして (同年、第三号)									
図書館人を偲ぶ座談会 (一) 主催図書館雑誌編集部 (同号)									
編輯後記 (同号)									
評議員会・全国図書館総合協議会の結果を顧みて―本協会役員改選の重要性を想ふ (巻頭言) (同年、第四号)									
編輯後記 (同号)									
更生途上新理事団の選出と未納会費の処分問題 この快報を前にして善処を望む― (同年、第五号)									
石川県図書館概況 石川県の頁の初めに (同号)									
編輯後記 (同号)									
甲種図書群読書指針 (東京帝国大学図書館司書官、日本図書館協会常務理事中田邦造先生案、甲種 (中等程度) 図書群目録、青年文化振興会発表)									
読み物の献立 (「サンデー」毎日第二〇年第二二二号)									
新年度会員増加の諸問題―特に特別会員の特別待遇について― (「図書館雑誌」第三五年第六号)									
良書推薦の限界と図書群の意義 (「社会教育」第二二巻第六号)									
蒐書と図書群 (「日本古書通信」第一四二二号)									
編輯後記 (「図書館雑誌」第三五年第七号)									
我等の協力者大政翼賛会文化部と日本出版文化協会 (同年、第八号)									
編輯後記 (同号)									
国民読書を導くもの―図書館員養成問題への反省― (同年、第九号)									
図書館と出版文化 (「東京堂月報」第二八巻第九号)									
後編後記 (「図書館雑誌」第三五年第九号)									
時局下の婦人読書 (「婦人朝日」第一八巻第二一〇号)									
編輯後記 (「図書館雑誌」第三五年第一〇号)									
第四部書誌学部会の出発―幸田成友博士を部長に迎へて― (同年、第一一号)									
北支南満図書館人の旅日記 (同号)									
編輯後記 (同号)									
第三部専門並特殊図書館部会陣容成る (同年、第一二号)									

図書館界の先覚者中田邦造先生の著作年表

昭和 17 年 (1942)											
11	10	9	8	7	6	3	2	1	昭和一七年（一九四二） 四六歳	出版文化と図書館事業（「文献報国」第七卷第一二号） 編輯後記（「図書館雑誌」第三五年第一二号）	
<p>東亜新文化圏建設への図書館界の分担―昭和十七年の新春に題す―（「図書館雑誌」第三六年第一号） 編輯後記（同号）</p> <p>『図書館事業ノ体制確立ニ関スル請願』（巻頭言）（同年第二号） 編輯後記（同号）</p> <p>創立満五十年を迎へて百年の大計を想ふ（同年第三号） 大東亜戦下に如何に図書館記念日を迎へるか（同号） 部会規則の改訂成る（同号） 編輯後記（同号）</p> <p>読書指導運動天聴に達す―青少年文庫読書会へ侍従の御差遣―（同年第六号） 読書指導の戦士梶井重雄君（同号） 編輯後記（同号）</p> <p>編輯後記（同年第七号） 山田正佐君を悼む（同年第八号） 編輯後記（同号）</p> <p>新刊図書優先配給の実施―関係官庁団体の支援と日本出版配給株式会社の協力の下に―（巻頭言）（同年第九号） 公共図書館への優先配給実施について（中田邦造）（同号） 編輯後記（同号）</p> <p>出版文化国策の問題としての図書群（「国民評論」昭和一七年九月号） 編輯後記（「図書館雑誌」第三六年第一〇号）</p> <p>国民読書の普及運動と協会当面の対策―読書会の設置促進と図書群運動、新刊図書優先配給と蔵書構成の援助（同年第一一号）</p>											

	昭和19年 (1944)	昭和18年 (1943)	
昭和二〇年 (一九四五) 四九歳	<p>昭和一九年 (一九四四) 四八歳</p> <p>七月、東京帝国大学司書官を辞す。同月、公立図書館長に任ぜらる (内閣)。同月、東京都立日比谷図書館長に補せらる (文部省)。第二次世界大戦奇烈を加へ、館の重要資料、加賀文庫等郷土資料を疎開。また予算二〇〇万円を獲得して、井上哲次郎博士、市村瓚次郎博士、諸橋徹次博士、桑木厳翼博士等四十数氏の図書約三〇万冊を買いあげ、これら重要図書を疎開し、戦火より保護した。</p>	<p>昭和一八年 (一九四三) 四七歳</p> <p>3 読書指導法―青年学校教師の為に― (「図書館雑誌」第三十七年第三号)</p> <p>4 「国民読書と図書群」 (堀内庸村著) の序</p> <p>6 総裁賞の人々 (乙七) 梶井重雄氏の読書指導 (「図書館雑誌」第三十七年第六号)</p> <p>総裁賞の人々 (甲二) 高橋慎一氏「工場に於ける読書指導」 (同号)</p> <p>編輯後記 (同号)</p> <p>7 編輯後記 (同年第七号)</p> <p>8 図書館法規改正を目指して (同年第八号)</p> <p>編輯後記 (同号)</p> <p>9 文献の防護対策 (同年、第九号)</p> <p>10 麓鶴雄氏の「読書指導問題展望」を読み―特に渋谷国忠氏の自由読書論を批判す― (同年、第一〇号)</p> <p>11 国民読書運動の国策参加への第一歩―財団法人満洲開拓読書協会の設立を見て― (同年第一一、一二号)</p>	<p>12</p> <p>読書の理念に就いて (「工業青年の読書指導」)</p> <p>読書指導の技術等について (同書)</p> <p>編輯後記 (「図書館雑誌」第三十六年第一一号)</p> <p>編輯後記 (同年第一二号)</p>

昭和24年 (1949)	昭和23年 (1948)	昭和22年 (1947)	昭和21年 (1946)	昭和20年 (1945)
<p>12 5</p> <p>昭和二四年 (一九四九) 五三歳</p> <p>九月、東京都立日比谷図書館長を退職、爾来「読書学」の研究に専念す。</p> <p>自由を失っている自由読書界 (東京都中央図書館長中田邦造) (「読書」第六号)</p> <p>宗教読書について (「土」金光図書館報7号)</p>	<p>8 4 1</p> <p>昭和二三年 (一九四八) 五二歳</p> <p>読書運動の諸問題―「日本読書サークル」に関連して (「日読ニュース」第二号)</p> <p>民衆の発動にまつ読書施設拡充の一途 (「読書」第五号)</p> <p>頽廃か自然か―青少年の読書傾向とエロ・グロ出版物批評 (「読書」(講談社) 第1巻第7号)</p>	<p>7</p> <p>昭和二二年 (一九四七) 五一歳</p> <p>数字に現はれたアメリカ図書館 (「読書」第四号)</p>	<p>12 11 5</p> <p>昭和二一年 (一九四六) 五〇歳</p> <p>教養の自治の確立を目指して (東京都立日比谷図書館長中田邦造) (「読書」第一号、東京都中央図書館発行)</p> <p>読書する人々への奉仕の備へ―盛り上る要望に応へて― (東京都中央図書館長) (「読書」第二号)</p> <p>都立図書館の蔵書の現状と明日への計画―蔵書構成に都民の協力を望む― (「読書」第三号)</p> <p>平和国家と図書文化 (「読書政治年鑑」昭和二三年版、昭和二一・二二・一〇)</p>	<p>5</p> <p>八月、終戦</p> <p>勤教育に関する参考文献◇高級指導者用研究図書群試案。◇ (中田邦造、日比谷図書館長) (「生産指導者」第八号)</p>

昭和 26 年 (1951)	昭和 25 年 (1950)
<p>昭和二六年（一九五一）五五歳</p> <p>2 宗教教育と読書(上) (『土』14号「金光図書館報」)</p> <p>4 公共図書館は学校図書館にどのように手をさしのべているか (『学校図書館』第六号)</p> <p>6 宗教教育と読書(中) (『土』16号)</p> <p>8 宗教教育と読書(下) (『土』17号)</p> <p>11 読書指導の領域 (『学校図書館』第一三三号)</p> <p>読書知識の諸相と読書字の問題―読書に関する媒介活動の立場を明かにするために― (『理想』第二二三号)</p>	<p>昭和二五年（一九五〇）五四歳</p> <p>九月より翌二六年三月まで I F E L 図書館学部専任講師を委嘱せらる。</p> <p>昭和一二年以来日本図書館協合理事に継続就任し、在職中は公立図書館司書検定試験委員、図書館職員養成所講師、文部省専門委員等を委嘱せらる。なお本年より同協会顧問に推薦される。</p> <p>1 学校図書館の経営 (『読書山梨』第二巻第一号)</p> <p>2 宗教読書における読書主観と生活主体 (『土』8号「金光図書館報」)</p> <p>4 宗教読書における宗教心の問題 (『土』9号)</p> <p>5 毛利宮彦著 図書館学綜説 (『教育図書ニュース』第6号)</p> <p>6 座談会・図書館報ができあがるまで (『図書館雑誌』第四四年第六号)</p> <p>8 入信の機と読書 (『土』10号)</p> <p>10 信決定の読書 (『土』11号)</p> <p>11 信生活の持続と読書 (『土』12号)</p> <p>12 読書で貫く生活 (『出版』ニュース)</p> <p>読書現象における宗教性 (『土』13号)</p>

図書館界の先覚者中田邦造先生の著作年表

	昭和31年 (1956)	昭和30年 (1955)	昭和29年 (1954)	昭和28年 (1953)	昭和27年 (1952)
遺稿	<p>8 図書群構想の基本問題―素描（「IFEL図書館学」第七号）</p> <p>昭和三十一年（一九五六）六〇歳 十一月一日永眠せらる。</p>	<p>7 胃潰瘍を送り出して―昭和三十一年七月一七日</p> <p>昭和三十一年（一九五五）五九歳</p>	<p>昭和二十九年（一九五四）五八歳</p>	<p>8 3 ファインディング・リスト編集委員会「序」 図書館協会を背負込む前後のこと（「図書館雑誌」VOL. 47 No. 8）</p> <p>昭和二十八年（一九五三）五七歳</p>	<p>4 2 宗教読書における靈感と読心の問題（『土』20号「金光図書館報」） 「IFEL図書館学」の意義（「IFEL図書館学」創刊号）</p> <p>昭和二十七年（一九五二）五六歳</p>

一、読書生活の目的（石田清一氏が、昭和三十一年四月、「読書科学」第2巻第1号に掲載。）

二、図書館職員養成所における講義要綱（加里版二三ページ）

三、図書群の編成を通じての読書指導について。（二〇〇字詰原稿一一一枚）

四、読書学

A、読書現象論（四〇〇字詰原稿一一九三枚）

B、読書技術論（四〇三枚）

C、読書における自由と自在の問題（三二三枚）